

集団を育てる

ある保育園の生活



七月三十一日(火) たいへん暑い日
井の頭保育園を見学させていただきました。

いつもは九時半頃朝の集まりをして、それからクラス別に一斉保育をするとのことですが、ちょうど夏期保育に入ったばかりで、十時まで自由遊び、その後皆でブルーへ入り(入れない子は、シャボン玉、ブランコ、スベリ台で遊ぶ)食事、午睡、おやつ、お帰り、というプログラムでした。暑くてしのぎにくい夏の間は、思い切り自由に遊ばせることにしているとのことでした。

◇保育園の門をくぐると、四歳の女兒が、ヤッと屈くぐらゐの高い鉄棒で、軽々と

「しりあがり」や「さかあがり」をやっています。また、両足で鉄棒にぶらさがって、両手を離し、ぶらぶらとゆすったり、

「しりあがり」をして鉄棒の上にはずわってから、後まわりをしたり、小学校一〜二年ぐらいかと思われるほど、じょうずにやっています。運動能力がよく発達しているなと思ひながら、しばらく見えていますと、男児も女兒も六、七人みなじょうずにやっています。鉄棒の横に縄ばしごがあり、縄がはずしてありますので、子どもたちは、四本の垂直な鉄棒を上までよじ登り、上の横の棒にぶらさがって遊んでいます。これも男児も女兒も靴をはいたまま、すらすらと登って行きます。ひとりのおとなしそうな

四歳の女兒が、登る練習をしています、なかなか登れません。先生が「登ってごらん」と足がすべらないように押さえてあげると、三段階登れます。「ほら、ここまで登れた、練習してごらん」といわれ、練習を始めます。「すらすら登れるよ」「砂もかけないで登れるよ」「ぼくだって両方登る」と近くで登れる自慢を始めますと、今登れるようになった女兒は「何回もやったら登れちゃう」と、途中まで登れるだけでも得意顔です。

少し離れた所にブランコがあり、やはりブランコがはずしてあります。その四本の鉄の棒も登っています。これは斜の棒ですが、二本の鉄の棒に片方ずつ手足をかけて、かえるようなかっこうで登って行く男児がいます。

園舎内のホールでは、柱に箱積木の長い板をたてかけて、それを登り、柱までたどりつくと柱を登っている女兒がいます。柱を登り出すと板は倒れますが。

庭には十数本の大きな木があり、涼しい木陰をつくっています、その木へ「男の

子も女の子もよく登ります。男の子も女の子もたくましく育ってほしいと思ひ、どんな登らせています」と先生は語っておられました。

ホールでは四人の五歳の男児が箱積木をたいへんおもしろく積み、椅子をさかさまにおいたりいろいろ工夫して楽しそうに遊んでいます。二歳半、三歳という小さい数人の子を除いて、二人、三人、四人とほとんどの子がグループで遊んでいます。この男児のグループは、一時間以上箱積木で、途中からとなりで積木で遊んでいた三人の四歳男児が合流して、どんどん遊びを発展させていました。積木の車輪を持ってすわっている子がいますので、自動車ごっこかなと思ひながら「これなあに」ととききますと「救急車」「パトロールカー」「病気〇〇ちゃん」と答えます。しばらくすると、救急車の横に積木でテーブルをつくり、椅子を並べて、トックリ型の木を何本もテーブルにおき、木のおわんへトックリからつぐまねをし、おわんをぶつけ合せて「かんばい」といって何杯も飲むまねをし

たり（ジュースらしい）、三角、四角の積木を、むしゃむしゃと食べるまねをしています。

「水鉄砲」「しいの木林」などのうたを皆でうたいながら、箱積木をつみかえ、家のように壁や屋根をつくって、中へ入ったり出たり始めます。中へ入って入口も全部閉じて、「戦車だぞ」と汗だくでくで何かしています。しばらくして外へ出て、さっきのトックリでボーリングのまねをしてから「みんなもう一度入ろう」とK男が声をかけますと、五人が積木のそばに一列に並びます。K男は、屋根の上へすわって「映画みたい人手をあげろ」といいますと、皆手をあげます。K男は前から三番目までのところへ手を入れ、「ここまで入っていい。あがっちゃだめ」と命令、一人ひとりはい「いい」「〇〇ちゃんむこう。〇〇ちゃんこっち」と中の場所の指定を受けてから「映画館の中へ」入って行き、五人全部中へ入ります。H男はその間、積木をあちこち積みかえています。全部入ると、入口の戸を閉ざします。記録者に向かって「こ

れ映画だよ」と言います。なるほど、正面に窓があいています。K男とH男は入りません。K男「おい、お前らおぼけの映画だからな」と窓の方をみている子たちに、窓から声をかけ、「おれ、おぼけになろうかな」H男「これからおぼけの映画が始まります。こわい映画です。うーうーうー」とトックリを二本持って、屋根の上で言います。K男が両手をおぼけのようにたらんとして、白眼を出し、舌を出して、「おぼけー」と屋根にのぼって窓からいいますと中の子たちは「ひゃー」と叫びます。しばらくしてチャイムがなって入って来た子どもたちにK男は「今おぼけの映画やっていたんだぞ」と話し、数人の子たちがおもしろそうにききます。

室内では、箱積木の横で、小さい積木で遊んでいる二・三人、二つの椅子で一つをさかさにおいて自動車ごっこをしている二人、スイカのようなボールで遊ぶ二人、保育室で、机の下をくぐっておにごっこをしている数人、レジスターのおもちゃをいじる子などがあります。

庭では、大きいボールでまりつき、スベリ台、ボールの周りをまわっておにごっこ、地面に絵をかく子、三輪車、二輪車などで遊んでいます。二輪車にのる男児は、サドルの上へのらないで、荷合の上のつて、片足で、トントントンと地面をけり、しばらく両足をぶらんとさげて走らせては、またトントントンと地面に足をつけています。ペダルに足をかけるところまではいっていません。次に代った子も同じように荷台にのっています。サドルにのると足が届かないためのようです。

十時にチャイムがなり、庭の子はホールへ入ります。数人の女児が箱積木を片づけ出し、男児二人も片づけますが、K男はおしゃべりしたり、飛びまわっています。小さい積木や、トックリ、おわん、おかまなども、それぞれ数人グループで箱へ入れ出します。順番があるときみえて何回も出しているはやりなおしをしていいねいにしまっています。

四クラス五人が一部屋へ入り、出欠点

呼を受けます。りす一五人、うさぎ二人、ひよこたまご二七人と先生から一度きくと、すぐ暗記できる女児がおり、給食室へ報告に行かされます。

それから大きいクラスからプールへ入ります。

X X X

食後みなおひるねをしたので、先生方からお話を伺ったり、保育実践記録をみせていただいたりしました。

六月の目標は一番小さいたまご組(二歳半)「集団の意識をもつ」、ひよこ組(三歳)「遊びの中に入れない子を遊びの中に入れる、新しい子をふるい子の中に入れる」、りす組(五歳)「批判力が出てきたので、それをよい面に取り上げることによって個々のよさを認める」となっています。

今月の目標は集団つくりに関するこのようですが、いつも集団に関することが多いのですか。

「集団に関することばかりです。年令に応じて、内容に差はありますが、始めの半年は個人をのばすことに重点をおきます。個人がのびないと集団ものびませんから。九月頃から集団のまとまりに重点をおき出し、一月と三月が完成期です。四月にまず各クラスで六人ずつのグループをつくります。しばらくたつと、一人ひとりの個性がわかって来ますので、乱暴な子が多くて、自分を出せないでいる子を、おとなしい子の多いグループに入れてあげるなどグループのメンバーを変えます。」

よくグループ内でおとうさん、おかあさん、おにいさん、おねえさんなどをきめている園をみかけますが。……「それは遊びのように思えます。一人ひとりちゃんど名前があり、一人の人格があるので、〇〇さんとしてその人の人格を認めその人自身にぶつかりあう関係が幼児の現実の生活に必要なのではないのでしょうか。私共では、六人のグループ・リーダーとして当番を選ばせます。」

すると当番は鳥にえさをやったり、

目標	批判力が出てきたのでそれをよい面にとりあげるこ とによって個々のよさを認める。	
集団の発展	ねらい	生活実態
	仲間同志助けあが て自主的な生活にす るようになる	1. 当番をみんなで助ける 2. 当番は当番の仕事で自分とは 関係がない態度をしめていた 3. 中甸——当番は自分たち めにある事がわかりかてきた 当番の身仕度、遅い当番を手伝 うようになってきた 4. 積極的に助ける方向に持って 行きたい
生活指導	梅雨期である事を食自 知らせ、特にけ、自分で 物の気をつけ、自分の 体を	1. 梅雨について話し合いをする 2. のみもの、たべものについて 認識を深める 3. 梅雨期にかびの生えやすい事 を知る
絵画製作	指、手のひら、腕、 などけんめいさをつ たくむ創意性をま まか	粘土遊びを通して 1. ひっかきあそびをやる(指を 中心に) 2. おだんご、長いものをつくる (手のひら中心) 3. たたく、なげる(腕を中心に) これらの遊び中でいろいろなおも しろいかたができて友達と みせあう
音楽リズム	◆ 4打が完全にで きの中ずりうそ感 をかきこの輪唱が きょうにに歌える	輪唱 1. 自分が負けじと声をむ だに使う 2. 音が不安定になり歌 えなくなる 3. 隣に完全に などみうける ① 仲間全体があわないとき にならない事を知らせる ② 4打が2~3人でできない。た だしゆっくりやればできる。リ ズムの問題ではないか
観察	ものを見つめる態 度を養いやる態 度を考えよう	1. かびってなんだろう 2. かびをつくってみよう 3. パン、シチュウを材料とす る 4. かびは不潔な所や暗い所に生 えやすいことを知らせる 5. けんぴきょうでみる 6. 根、くき、ほうしのあること を知る
文学	豊かな創意性をつ ちかう	1. 高瀬けい子著「なかまはずれ」 羽田書店 お話 2. エッチェイレイ著「ひとまね こざる」岩波絵本 3. アメリカ民話「ペネロイアル のオネたいじ」岩波 ○それぞれの内容を深くほりさげ ていく

お花に水をやったりといった仕事をす
るのではなくて、班長のような役なの
です。

「そうです。六人のグループの人間関係を
統率する役です。人間同志の交わりがうま
くできないうちに動物に興味を持たせても
しかたがないと思ひ、それらは先生がして
います。当番は一週間ずつで、全部の子が
選ばれるように配慮します。

九月頃からは年長組から男児一人、女兒
一人のリーダーを選ばせ、園全体の統率、
例えば「けんかの仲裁」などをさせます。
みんなはけんかがおきたら、先生のところ
へ来ないで「リーダーさん」とリーダーの
所へ解決してもらいに行くのです。」

「一週間です。みんなに一度ずつ味わわせ
なれるのですか。」

たいのですが、誰でもできるリーダーでは
名譽に思わなくなり、やりたいと思わなく
なるので、「○○ちゃんは、この間小さい×
×ちゃんを助けていましたよ」などといっ
たりして「Aちゃんのどこがいいからリー
ダーになつてもらう」と、特別に選ばれた
という意識をもたせるようにします。土曜
日に皆で今週のリーダーの批判をします。
「こんなことで困つた」と先生が全く知ら

ないことでリーダーが苦勞している話をきかされるときは、よくやってくれました」と頭が下ります。」

今度この子にしたいという先生の意

図と子どもの意図が一致しますか。一

致しない時は？

「一致しない時もよくあります。どうしても『○ちゃんがいい』といって。そういう時は、やはり子どもの意図を通します。」

絵画や、音楽リズムもこの目標に沿ってされるのですか。

「すべて集団を通じての人間形成というこ
とに向かつて行ないます。いわゆる形には
まった『おゆうぎ』などを覚えこませて、
きれいにやれても何の価値もないと思いま
す。リズムに合わせて歩けるとか、二拍
子、三拍子がわかるとか最少限のことが理
解できれば良いと思います。絵もただぼ
んやりとはかせません。それを通して集
団形成に必要な、観察力、批判力が養われ
るようにと願います。例えば、先生の顔を
かく場合、人形の顔とどこが違うでしょ
うと比較させ、鼻は息をするためにありま

す。何のためにするのでしようと考えさせ
ます。漠然とした自由画はかせません。

観察眼を養うことには力を入れます。こ
の間パンにカビをつくって一人ひとり顕微
鏡でみました。『根』がある。『ほうし』が
あるとみて喜び（ほうしをタンポポのわた
げみたいといった）家で『かびにほうしあ
るんだぞ』と母にはなした子もいました。』
ほとんどの子がグループで遊んでい
たようでしたが……。

「集団で遊ぶことに重点をおいています。
クラスの六人のグループがよく遊びの中ま
で発展しています。」

プールから出た時、大きい子に、小
さい子の着衣を手伝わせておられまし
たが……。

「年少児の世話をするようにいいます。遊
びの中で年少児を助けることは高く評価さ
れます。」

グループには名前がありますか。

「Aグループ、Bグループと英語が多いで
す。これは○ちゃんは大きい組のときB
グループにいたから、ぼくたちも英語でつ

けようなどといいだし、毎年伝統のように
英語でよばれています。これからみても、年
長児と年少児の間に交流があることがみら
れます。小さい積木も長い時間かけて片づ
けていましたが、あれには入れる順があつ
て、今の子はいもう卒業した子から受けてい
だのです。今の子たちにも卒業しないうち
に四歳児に受けつがせておきたいと思つて
います。」

二、三人ぼんやりしている子がいま
したが新しい子ですか。

「乳児院から入って来た子は三歳未満でも
集団生活に慣れていてどんどん遊びます
が、家庭から入って来た子は大きくても遊
び方を知りません。ぼんやりしている子は
家庭から入って来た子たちです。とけこむ
まで時間がかかります。」

* * *

いつものグループ指導、絵画、音楽リ
ズムの場面がみせていただけなくてたい
へん残念でしたが、暑い日に元気でのび
のびと遊んでいる子どもたちと、一日楽
しく過ごしました。

(一)